

水産ジャーナリストの会

会 報

NO. 121

Japan Fisheries Journalists' Association

2013年1月29日
水産ジャーナリストの会
(会長：岸 康彦)

事務局：中村 謙一
(全国漁業就業者確保育成センター)
090-3342-9116
nakamura@ryoushi.jp

■2013年度定期総会を開催■

状況の厳しさ踏まえ一層の結束を

1月22日午後大水会議室で2013年度(第29回)定期総会を開催し、12年度事業報告並びに13年度の事業計画、同予算を了承した。

12年度の水産業界の状況は水産物消費が落ち込む中、業界あげて消費拡大に向けた活動が目立った。そうした中で、水産庁が提唱した「ファストフィッシュ」が量販店を中心に好評を持って迎えられ、消費者の反応も徐々に拡大し、今年度の動向に期待が持てそうな状況になってきた。

その一方で、魚価は相変わらず低調に

推移し、特に12年度は養殖ギンザケの価格暴落が他の魚種にも及び、漁業経営の厳しさが続いている。喫緊の課題でもある東北水産業の復興も、地域的にバラつきがあるとは言え、全体的には遅れが目立つ。

以上の状況をみると、13年度も水産業界の苦境は避け難く、業界の一層の結束が不可欠になるとみられる。

■2012年度年度賞■

《(株)OH ガッツ》

「震災復興に向けた一連の養殖業生産・販売活動」

《栃木県立馬頭高校水産科》

「水産高校生が開発した休耕田でのホンモロコ養殖」

定期総会に引き続き2012年度の年度賞授賞式が行われ、(株)OH ガッツの「震災復興に向けた一連の養殖業生産・販売活動」と栃木県立馬頭高校水産科の「水

産高校生が開発した休耕田でのホンモロコ開発」の2団体に岸会長が表彰状を授与した。



左から伊藤社長、岸会長、田代校長

◎6次産業化めざし頑張る－伊藤 OH ガッツ社長◎

年度賞を受賞した OH ガッツの伊藤浩光社長は「年度賞に選定していただき大変有難く思っている。今年3月11日が来ると震災から3年目に入る。養殖業を再開しつつ、現在は漁業の6次産業化に取り組んでいる。多くの漁業者が株式会社化を望んでいるのでそれを助ける活動をしている。先頭に立って仙台で若手の飲食店経営者などに接触し、生産者の顔が見え

る水産物を消費者に提供する直接販売の道を探っている。

その一環として、2月20日には国分町で「ザ漁師祭り」の開催を計画しており、同様のイベントを年度内に4回開催し、三陸産の水産物をPRしていく。併せて東京でもカキ小屋のイベントができないか宮城県漁協とも調整しながら実現させたいと考えている」と語った。

◎ウナギのふ化にも成功－田代校長◎

また、馬頭高校の田代和義校長は「馬頭高校は4クラスのうち1クラスが水産科で、所帯は25名と小さいが、全国でも唯一内水面に特化した水産教育を行っている。今回のホンモロコ以外にも様々な課題研究をこなしている。特にウナギの

ふ化にも成功しており、完全養殖の一翼を担いたいと思っている。ナマズの養殖も行なっているが、ナマズは共食いが激しいので、共食いを防止する養殖技術の開発に取り組んでいく」と抱負を述べた。

◎新たなスタートの年に－白須大水会長◎

授賞式後懇親会に移り、白須敏朗大水会長が挨拶し「今年を水産業界の新たなスタートの年としていきたいと願っている」と表明。最後に山地進顧問が大会の

発足当時を振り返りつつ「今後も水産業の発展に向けて会の活動を活発化していただきたい」と締めくくり、懇親会を終えた。